

## 文化財防災ネットワーク推進事業

**目的** 2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災における被災文化財等救援委員会の活動を基盤に、災害時の文化財等の防災に関するネットワークの構築を目的とする。(1) 体制づくり、(2) 調査研究、(3) 人材育成と情報発信の観点から、事業を進める。

**成果** ○地域防災ネットワークの確立促進（北海道・東北地方）

以下の各施設を訪問し、ヒアリングや情報収集を実施した。

2018（平成30）年4月19日 岩手県立博物館、4月23日 熊本県通潤橋、5月24日 陸前高田市立博物館、6月15～17日 高知市文化プラザ（文化財保存修復学会大会）、9月11日 青森県立美術館、10月10日 山形県教育庁文化財・生涯学習課、10月17日 宮城県教育庁文化財課、10月30日 秋田県立近代美術館、11月15日 福島県庁企画調整部文化スポーツ局生涯学習課、2019（平成31）年1月18-19日 福島県双葉町、2月6日 北海道立旭川美術館、2月7日 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ

○無形文化財の防災のための動態記録作成に関する調査研究

動態記録による防災のためのモデルケースとして、文化財保存に関わる楽器製作技術、徳島県の阿波晩茶製造技術の記録撮影を行った。また映像だけでなく、鵜飼船製造技術調査においては、使用される道具や工房などの実測調査も行い、映像を補うための情報を補足する試みも併せて行った。

○文化財総合データベースの構築とネットワークの確立

下記の6項目に取り組んだ。

①全国文化財等データベースの確立

国（文化庁）及び都道府県の情報提供による全ジャンルにわたる文化財等の総合的なデータベース作成を継続した。

②全国文化財保護条例データベースの運用

製作を継続してきた全国都道府県・市町村の文化財関連条例データベースを完成させた。

③無形文化遺産総合データベースの確立

国（文化庁）及び都道府県の情報提供による無形文化遺産の総合データベースの作成を継続した。

④アーカイブスの作成

データベースに連動したアーカイブスに動画・報告書等各種データを収集した。併せて地域資料の収集とデジタル化を推進した。さらに、モデルケースとして京都府所蔵の文化財資料のデジタル化を行った。

⑤都道府県の民俗文化財担当者による連絡会議

上記の連絡会議を2回開催し、15府県及び1市からの参加があった。また、メーリングリスト等を用いた担当者間ネットワークを継続運用した。

⑥無形文化遺産情報収集ウェブサイトの構築・運用

防災に資する無形文化遺産の情報収集と発信を目的としたウェブサイトを継続的に運用した。

○阪神・淡路、東日本両大震災の救援委員会記録の整理・分析研究

災害時に必要な手続きや資材、人材について把握し、将来、地震の規模や立地、被害の性格によって初動体制をシミュレートするために、性格の異なる震災の初動体制の記録を整理し、基礎

情報を収集して解析を進めた。

○水損資料の処置方法と臭気発生の関係に関する研究

津波被災紙資料の処置法の改善を目的に、岩手県立博物館仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設における安定化処置の処置水の生菌数を計数した。また安定化処置に必要な日数を最適化することを目的に、様々な種類の紙の水ポテンシャルを計測した。

○文化財防災に関する研修(博物館・美術館学芸員等)

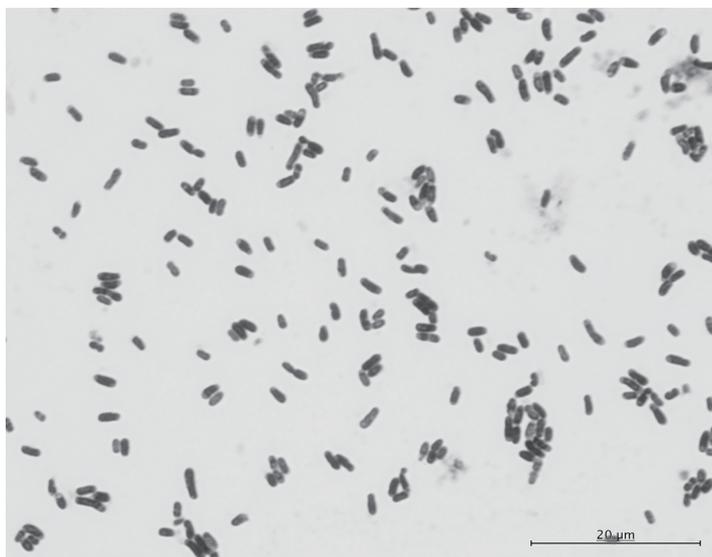
博物館・美術館における災害時の被災資料保全のための情報提供を目的に研修会を開催した。

日 時：2019(平成31)年2月27日(水) 13:00~17:00

テーマ：水害に備える 参加者：26名

共 催：京都国立博物館

後 援：京都府教育庁指導部文化財保護課、京都市文化市民局文化芸術祭推進室、京都市内博物館施設連絡協議会



安定化処置の処置水に存在する生菌

発 表・古田嶋智子、呂俊民、内田優花、森井順之、吉田直人、熊谷賢、浅川崇典、本多文人、佐野千絵：「被災資料の保存空間におけるナフタレン濃度の調査について」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16

・内田優花、林美木子、佐野千絵：「陸前高田市立博物館津波被災文書類の安定化処置における微生物制御の課題」日本防菌防黴学会 18.11.13

刊行物・『文化財保護のための動態記録作成に関する調査研究事業—民俗技術の記録制作事業報告書—』東京文化財研究所 19.3

・『平成28年度「無形文化遺産の防災」連絡会議報告書』東京文化財研究所 19.3

映 像・映像記録『長板中形—松原伸生の技』東京文化財研究所 18.7

研究組織 ○佐野千絵、吉田直人、内田優花、林美木子、佐藤嘉則、小峰幸夫、早川典子、藤井佑果、間淵創(以上、保存科学研究センター)、山梨絵美子、二神葉子(以上、文化財情報資料部)、飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、大原嘉豊、近藤無滴、降幡順子、松沼穂積(以上、京都国立博物館)、黄川田翔(東京国立博物館)

## 文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る」

本ワークショップでは、文化遺産国際協力コンソーシアムが平成27～29年度に行った、支援実施国8か国（韓国、ベルギー、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スペイン、英国）を対象とする「国際協力体制調査」のうち7か国についての結果を共有するとともに、文化遺産国際協力のあり方や、今後日本がどのような文化遺産国際協力を行っていくべきかについてグループに分かれて意見交換を行った。

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム

日時：2018（平成30）年7月24日（火） 13：30～17：30

会場：赤坂インターシティコンファレンス 401

参加者：39名

ファシリテーター：【韓国】青木繁夫（東京文化財研究所 名誉研究員）

【ベルギー】井内千紗（国際短期大学 専任講師）

【フランス】羽生修二（東海大学 名誉教授）

【ドイツ】海老澤模奈人（東京工芸大学 教授）

【イタリア】松田陽（東京大学大学院 准教授）

【オランダ】藤岡麻理子（横浜市立大学 特任助教）

【英国】岡村勝行（大阪文化財研究所 東淀川調査事務所長）

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

## 文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献」

アンコール・ワット、ナスカの地上絵、バーミヤーン大仏といった文化遺産の調査研究・保護活動の第一線で活躍する専門家や、大エジプト博物館の建設プロジェクトに携わる実務者の視点から、文化遺産国際協力の最新の取組みを紹介し、ディスカッションでは文化遺産分野における日本の国際協力の性格や特色、現在直面している課題を明らかにするとともに、今後の国際協力のあり方について議論した。

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁

日時：2018（平成30）年10月8日（月・祝） 13：00～17：00

会場：日経ホール

参加者：204名

講演：・青柳正規（文化遺産国際協力コンソーシアム会長、東京大学 名誉教授）

基調講演「国際社会における文化遺産の保護と活用」

・丸井雅子（上智大学総合グローバル学部総合グローバル学科 教授）

講演1「カンボジア和平と世界遺産アンコールの25年—人材養成のあゆみ—」

・坂井正人（山形大学学術研究院 教授／山形大学ナスカ研究所 副所長）

講演2「世界遺産ナスカの地上絵に関する保護活動と学術研究」

・荒仁（国際協力機構 社会基盤・平和構築部 都市・地域開発グループ長）

講演3「エジプトでの文化遺産の有効活用に向けて—大エジプト博物館への国際協力の現場から—」

・山内和也（帝京大学文化財研究所 教授）

講演4「岐路に立つバーミヤーン文化遺産の保護—未来へ伝えるために—」

パネルディスカッション「日本の国際協力の課題と展望」

司会：松田陽（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授）  
パネリスト：丸井雅子、坂井正人、荒仁、山内和也

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

事業の一部として実施した研究集会・講座等

## 文化遺産国際協力コンソーシアム第24回研究会「文化遺産とSDGs」

2015（平成27）年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」に関する基本的な理解を深めるとともに、文化遺産国際協力を行う立場からどのようにSDGsを捉えるべきか考察することを目的に、講演とパネルディスカッションを行った。

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム

日時：2019（平成31）年1月11日（金） 13：30～17：00

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：129名

講演：

- ・佐藤寛（アジア経済研究所 上席主任調査研究員）「SDGs時代における、『文化』と『遺産』と『国際協力』」
  - ・浦野義人（国際協力機構 産業開発・公共政策部 特別嘱託）「SDGsと観光開発協力」
  - ・關雄二（国立民族学博物館 副館長／人類文明誌研究部 教授）「文化遺産の持続的活用—南米アンデスの事例から」
- ディスカッション「文化遺産の国際協力とSDGs」（モデレーター：關雄二）

パネリスト：青木繁夫（東京文化財研究所 名誉研究員）、佐藤寛、浦野義人、竹本和彦（国連大学サステナビリティ高等研究所 所長）

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

事業の一部として実施した研究集会・講座等

## 文化遺産国際協力コンソーシアム特別講演会「文化遺産とSDGsを考える」

2019（平成31）年1月11日に開催された文化遺産国際協力コンソーシアム第24回研究会「文化遺産とSDGs」に関連して、海外での取組みや、どのような議論がなされているのかを紹介する目的で、オーストラリアの専門家を招へいして講演会を行った。

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム

日時：2019（平成31）年3月19日（火） 16：30～17：30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：48名

講演：

- ・ルー ス・レッデン（Ruth Redden）（RR Conservation & Design代表、建築家・ヘリテージコンサルタント、オーストラリアICOMOS 国内学術委員会 Energy, Sustainability and Climate Change 会員）
- 「文化遺産とユネスコの持続可能な開発目標：歴史的建造物はどのように環境的に持続可能な開発に役立つことができるか（Cultural Heritage and UNESCO's Sustainable Development Goals; How Historic Buildings can be a Resource for Ecologically Sustainable Development）」

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

## 研究会「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」

ネパール国立博物館のJaya Ram Shrestha館長とYamuna Maharjan学芸員を招へいし、標記の研究会においてネパールの無形文化遺産の現状と課題について情報提供をいただいた。また国内の専門家と意見交換し、ネパールの文化遺産保護に資する交流を行った。

日 時：2018(平成30)年12月10日(月) 15:00~17:00

会 場：東京文化財研究所 地下会議室

参加者：24名

講 演：Jaya Ram Shrestha, Yamuna Maharjan (ネパール国立博物館)「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」

報 告：石村智・久保田裕道(東京文化財研究所)「東京文化財研究所によるネパール無形文化遺産の調査」

コメント：森朋子(札幌市立大学)

(文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」の一部として実施)

## The 2nd Mayors' Forum on the Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley (カトマンズ及びカブレ盆地の歴史的集落保全に関する第2回市長フォーラム)

カトマンズ盆地とその周辺には数多くの歴史的集落が存在し、有形無形の文化遺産に彩られた町並みで人々の生活が営まれてきたが、2015(平成27)年のゴルカ地震による甚大な被害とその後の復興過程の中での建て替えの進行等によって、伝統的景観が急激に失われつつある。一方で、歴史的集落保全に関する法制度等の枠組みは依然未整備である。このような状況に対応するため、関係自治体が各々の課題や経験を共有し、連携して問題解決に向けた声を国に届けることを目的に、担当者レベルの技術者ワークショップと市長フォーラムの2階層からなる協議スキームが東京文化財研究所の協力のもと設立された。2017(平成29)年12月の第1回(パナウティ市主催)に続き、今回は古都パタンなどを有するラリトプル市の主催にて、4市からの事例報告と共に、東文研チームの専門家からも調査成果に関する報告等を行った。

主 催：ラリトプル市

協 力：日本国文化庁、東京文化財研究所、クオパ工科大学

日 時：2019(平成31)年3月12日(火) 9:00~13:40

会 場：Ageno Restaurant (ネパール・ラリトプル市)

参加者：81名(うち市長11名、副市長8名、参加自治体14市)

講 演：(下線が発表者)

- Chandra Shova Shakya "Protection of Intangible Cultural Heritage in Lalitpur Metropolitan City"  
チャンドラ・ショバ・サキヤ(ラリトプル市)「ラリトプル市における無形文化遺産保護」
- Ram Govind Shrestha "Best Practice on the Protection of Intangible Cultural Heritage of Bhaktapur"  
ラム・ゴビンド・シュレスタ(バクタプル市)「バクタプルにおける無形文化遺産保護の実践」
- Krishna Bhola Maharjan "Intangible Heritage in Kirtipur"  
クリシュナ・ボラ・マハルジャン(キルティプル市)「キルティプルの無形遺産」
- Indra Prasad Adhikari "Best Practice on the Protection of Intangible Cultural Heritage Panauti Municipality"  
インドラ・プラサド・アディカリ(パナウティ市)「パナウティ市における無形文化遺産保護の実践」
- Hiromichi Kubota "Rehabilitation of Intangible Cultural Heritage in Japan and Festival of Khokana – Urban Planning and Intangible Cultural Heritage in the Reconstruction after Disaster"  
久保田裕道(東京文化財研究所)「日本における無形文化遺産復興とコカナの祭礼ー災害復興における都市計画と無形文化遺産ー」

- ・ Tomoko Mori “Relation between Structure and Intangible Heritage in Historical Settlements of Kathmandu Valley”  
森朋子 (札幌市立大学)「カトマンズ盆地内の歴史的集落における都市構造と無形遺産の関係性について」
- ・ Bijaya Krishna Shrestha “Combined Cultural Heritage of Historic Settlements of Kathmandu Valley”  
ビジャヤ・クリシュナ・シュレスタ (クオパエ科大学)「カトマンズ盆地の歴史的集落の複合文化遺産」
- ・ Rajesh Prasad Singh, Amy Faust “Sewer Work in Patan Core Area”  
ラジェシュ・プラサド・シン (コンサルタント)、アミイ・ファウスト (アジア開発銀行)「パタン中心域の下水設備」

(文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」の一部として実施)

事業の一部として実施した研究集会・講座等

## Workshop on the Conservation of Historical Brick Buildings in Bagan (バガンの歴史的煉瓦造建造物の保存修復に関するワークショップ)

バガン遺跡群には、3000件を超える遺構が存在し、その圧倒的多数を11～13世紀に建造された煉瓦造建造物が占めている。一方で、それらの建設に用いられた技術に関しては研究調査が乏しく、未解明の点が多い。2016(平成28)年の震災を受けて損傷した歴史的建造物の修復が目下進められている中、技法に関するオーセンティシティや耐震性能を含めた構造特性を考慮することがますます重要となっている。

本ワークショップでは、東京文化財研究所がミャンマー宗教文化省考古国立博物館局(DOA)やミャンマー技術者協会(MES)とも協働しながら実施してきたバガンの煉瓦造建造物に関する調査の成果や、ミャンマー側機関の取り組み状況等について情報共有するとともに、両国専門家間での意見交換を行った。

主 催：東京文化財研究所、ミャンマー技術者協会  
日 時：2018(平成30)年11月13日(火) 10:00～14:30  
会 場：ミャンマー技術者協会講堂(ミャンマー・ヤンゴン)  
参加者：14名  
講 演：(下線が発表者)

- ① Masahiko Tomoda “Brick masonry construction in Bagan –technical features and some consideration for their restoration”  
友田正彦 (東京文化財研究所)「バガンの煉瓦建築—技術的特徴とその修復に向けた考察—」
- ② Mikio Koshihara, Noriko Takiyama “Bagan from structural view”  
腰原幹雄 (東京大学)、多幾山法子 (首都大学東京)「構造学的視点から見たバガン」
- ③ Hiroko Watanabe, Kenji Takigawa “Organic analysis of historical mortar in Bagan”  
渡邊緩子、滝川健次 (日鉄住金テクノロジー (株))「バガンの歴史的モルタルの有機分析」
- ④ U Saw Htwe Zaw “Ancient Bagan brick works”  
ソー・トゥエ・ゾー (ミャンマー技術者協会)「古代バガンの煉瓦工法」

主 催：東京文化財研究所、DOAバガン支局  
日 時：2018(平成30)年11月14日(水) 10:00～16:20  
会 場：バガン考古博物館別館会議室(ミャンマー・バガン)  
参加者：14名  
講 演：

- ①～③は上記と同じ
- ④ U Soe Soe Lin “Conservation of monuments in Bagan”  
ソー・ソー・リン (DOAバガン支局)「バガン遺跡群の保存修復」

(文化遺産国際協力拠点交流事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」の一部として実施)